

Q. どのくらいの頻度で検査を受ける必要がありますか？



A. 肝がんの早期発見のために、超音波検査、腫瘍マーカー※の測定、CT/MRI検査を定期的に受けてください。検査の頻度は患者さんの状態により異なりますので必ず主治医にご相談ください。

検査項目	検査を受ける間隔(目安)
超音波検査	<p>6か月 1年 1年半 2年</p> <p>6か月~1年に1回</p>
腫瘍マーカーの測定	<p>6か月 1年 1年半 2年</p> <p>6か月~1年に1回</p>
CT/MRI検査	<p>1年 2年</p> <p>1年に1回</p>

※腫瘍マーカーとは、腫瘍ができたときに血液中に分泌される特徴的な物質です。肝がんにおける腫瘍マーカーは、AFP/PIVKA-II/AFP-L3などがあります。

ダクルインザ・スンペプラ療法で C型慢性肝炎治療を完了した

あなたへ



監修: 虎の門病院 肝臓センター

ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社
東京都新宿区西新宿6-5-1

2017年7月作成
DCSJP17PR0086402

C型慢性肝炎治療を 完了したあなたへ

ダクルインザ・スンベプラ療法により
ウイルス学的著効を達成されました。

C型慢性肝炎治療の完了おめでとうございます。

ウイルス学的著効の達成により
肝発がんリスクは減りましたが、
リスクが全くなくなったわけではありません。
そのため、定期的に肝臓の検査
(超音波等の画像検査、血液検査)を受けてください。
これからも一緒に肝臓を見守っていきましょう。

主治医

年 月 日

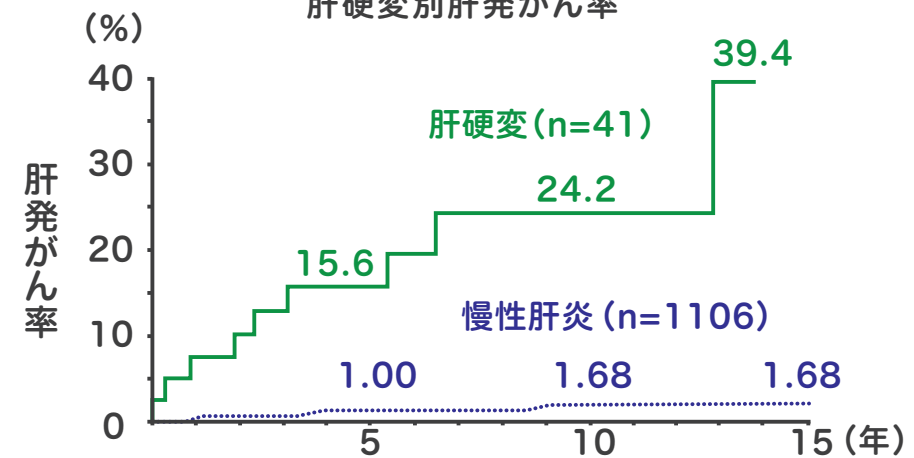
Q. どうして今後も定期的な
検査が必要なのでしょうか？



A. ウイルス学的著効達成後の肝発がん率を
見てみますと、慢性肝炎患者さんでは、5年後
で1.00% (約100人に1人)、10年および15年後で
1.68% (約60人に1人)に肝がんを発症したという
報告があります。

また、同様に肝硬変患者さんでは、5年後で15.6% (約6人に
1人)、10年後で24.2% (約4人に1人)、15年後で39.4%
(約5人に2人)に肝がんを発症したという報告があります。
そのため肝がんの早期発見のため定期的な検査が重要です。

ウイルス学的著効達成後の慢性肝炎、
肝硬変別肝発がん率



Hirakawa M et al. Intern Med, 2008; 47: 1637-1643.